

報告タイトル（＊日本語と英語両方ご記入ください）

大躍進の発動における柯慶施の役割——毛沢東と地方指導者の面会データから（1957年7月～1958年5月）

Ke Qingshi's Role in Launching the Great Leap Forward: Based on the Data Regarding Meetings between Mao Zedong and Regional Leaders (July 1957-May 1958)

氏名（所属）

竇 允皓（神戸大学）
DOU YUNHAO (Kobe University)

要旨（800字程度）

柯慶施は、1954～1965年の中国共産党上海市委員会第一書記であり、毛沢東が発動した「大躍進」運動の主な推進者の一人である。柯は「大躍進」を支持する報告を1957年末に行った。毛は南寧会議（1958年1月11～22日）で、同報告を賞賛し、穏健な経済政策を提唱した周恩来を厳しく批判した。それを通じて、毛は劉少奇、周恩来、陳雲等の急進的な経済発展路線に異議を唱えた中央政治局常務委員を無力化し、「大躍進」への道を切り開いた。本研究では、毛沢東と各地方指導者の面会回数を集計し、「大躍進」の発動における柯慶施の役割を定量的に明らかにすることを目的とした。それを通じて、毛が地方指導者を動員して「大躍進」を推進した戦略について新たな知見を提供することを目指した。

本研究は、『毛沢東年譜』をはじめとする中央政治局委員の年譜と、各地方が編集した党史資料を用いて、1957年7月から1958年5月まで毛沢東と各省・直轄市・自治区党委員会第一書記の面会、また毛と他の政治局常務委員の面会に関する情報を抽出してデータ化し、柯慶施と他の第一書記、また柯と毛以外の政治局常務委員のデータを比較することによって柯の政策決定における位置づけを分析した。

その結果、毛沢東が1957年7月の時点から既に「大躍進」を発動するために、地方指導者に働きかけ始めたことが明らかになった。そのうち、柯慶施は、毛との面会回数が最も多い地方指導者であったことがわかった。また、中央政治局委員のデータと比べると、柯の毛との面会回数が陳雲、鄧小平、彭真等の中央政治局委員を上回っており、劉少奇、周恩来と同程度に達したことが判明した。しかし、毛から批判を受けたこの二人と比較すると、この時期における柯の影響力がより強かったことが推測できる。以上の分析から、柯慶施は「大躍進」の発動過程において、他の地方指導者のみならず、一部の中央政治局委員を上回る政治的影響力を有していた可能性が示唆された。